

Ⅱ 国語

正答表並びに採点上の注意

追検査（令和八年度）

問三								
(ケ)	(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
3	1	3	2	1	4	4	2	4
4点	4点	4点	4点	4点	4点	2点	2点	2点

問二					
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
1	3	3	4	1	4
4点	4点	4点	4点	4点	4点

問一								
(ウ)	(イ)				(ア)			
	d	c	b	a	d	c	b	a
2	4	1	4	2	2	3	1	3
4点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点

問五										
(イ)									(ア)	
という特徴を持つ といえる。	が	り	考	し	決	り	に	暗	人間は、はつきり とは捉えていない ものについて、	3
	で	す	し	た	定	、	認	黙		
	き	る	続	ま	を	意	識	の		
	る	こ	け	ま	保	味	し	う		
	と	た	思	留	の	た	ち			
6点									4点	

(イ)は正答例。

問四			
(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	2	2	1
4点	4点	4点	4点

採点上の注意

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）がある場合と、表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。

○ 問五(イ)について

- ・ 指定語句は「**暗黙**」と「**決定**」である。

得点項目A

内容については、次の二点に触れていること。

- (あ) 「暗黙のうちに認識できる」こと。
- (い) 「意味の」決定を保留したまま思考し続けることができる「こと」。

〈正答例〉

人間は、はっきりとは捉えていないものについて、

暗黙のうちに「了解」することと、主題となる概念を**決定**せずに
30 思考することができる
40 ということ特徴を持つといえる。

人間は、はっきりとは捉えていないものについて、

意味の**決定**をペンディングして考え続けることや、**暗黙**のうちに
30 了解することができる
40 ということ特徴を持つといえる。